



## 第1回 スタートアップ会

日時 平成27年11月26日(木) 17:00~20:00

会場 中央区/がんこ なんば本店

### 「スタートアップ会について」

今回は、新しくORAに加入した会員に対し、小嶋達典ORA副会長より、ORAのこれまでの歩みや意義をはじめ、各部門の役割や重点課題を伝える「第1回 スタートアップ会」が開催されました。

#### 講師

がんこフードサービス株式会社  
取締役副社長  
小嶋 達典 氏



- 1 藤尾政弘ORA会長、挨拶
- 2 小嶋達典ORA副会長、講演
- 3 部門会の紹介1
- 4 部門会の紹介2

## 1 藤尾政弘ORA会長、挨拶

一般社団法人大阪外食産業協会(ORA)は、昭和56年(1981)の設立以来、**外食産業の健全な発展と近代化・合理化を図り、食文化の創造を社会へ貢献する組織**です。

ORAは**35年目**を迎えました。  
たくさんの失敗をして、  
螺旋階段のような成長、  
成長の繰り返し。  
**478社の会員のメンバーと一緒に**  
この協会を作っているのですが、  
2020年の東京五輪の開催に  
伴って「おもてなし」という言葉が  
聞かれるようになりましたが、  
**「おもてなし」は合理化しないと  
いけないと思います。**



**何のためにやるのかを理解し、なんのために働くのかを考える、**  
ORAは、たくさんの仲間と輪になって、そういったことを考える組織です。

## 2 小嶋達典ORA副会長、講演

「**スタートアップ会**」は、過去16回にわたって「**道場**」という名称で続けてきたものを、新しく加入した会員に向けて発信する会として再構築したもので、  
会の趣旨は「ORAが**どういった活動を行っているのか**を伝え、ORAに参加することで**何を**持って帰ることができるのかを知ってもらうこと」です。



新しく加入した会員が**活発に活動に参加し**、ORAの組織全体を活性化させるためには、このスタートアップ会でしっかりと説明を行い、**様々な情報交換**を行いつつ、**どんな活動をしていけばいいのか**をそれぞれの会員が考えていくことが必要です。

初代会長がORAを立ち上げたときはまだ**外食産業の地位は低かったものの**、**現在では産業として成熟**してきています。

**さらに発展し**、**社会に貢献**できるよう、たくさんの会員とともに考えていくことが重要です。

## 3 部門会の紹介 1

### ■総務部門会

総会や新年名刺交換会などの企画・運営を行う部門。重点課題は、**正会員社の協会事業への参画促進を行うことと、会員社をサポートする有益な各種情報の提供や事業を検討すること。**

### ■広報企画部門会

協会のブランド価値を高め、会員拡大につながる広報企画を展開し、機関誌やウェブサイト、SNSを活用し、認知度を高める部門。

重点課題は**情報発信力を強化し、対内外に協会活動を広報すること。**

### ■教育部門会

会員社に対する教育研究を検討・開催する部門。大学との提携や海外研修の企画も行う。

重点課題は、**会員社が受講しやすい研修内容の検討に取り組み、各種の教育研修と認定資格の普及活動を強化すること。**

### ■労務部門会

人員確保と雇用の多様化・定着化に向けた情報と、法令で定められた労働条件や安全衛生を確保するための労働環境改善に向けた情報の提供を行う。

重点課題は、**人員確保と定着化対策、労働環境改善対策。**

## 4 部門会の紹介 2

### ■事業部門会

店舗やメニューの開発、インバウンド対策に関する事業を計画・開催する部門で、重点課題も同じ。

国内産地との提携を強化し、新しい食材や商品などに関する情報の収集と提供を行う。

### ■食の安全・環境部門会

食の安全に関するセミナーや情報提供を行なう。

重点課題は、食の安全とリスクマネジメント、環境にやさしい取り組みを推進することでお客様に信頼され、豊かな食を提供できる店舗づくりを支援すること。

### ■組織活性化部門会

各部門会と合同開催を行い、会員間の情報交換に取り組み、他団体と具体的かつ積極的な情報交換を目指す。

重点課題は、組織の活性化と会員拡大を目指した活動を行うこと。

### ■賛助商社会

正会員と賛助会員の一体化に努め、ORAの活動内容を広く広報し、会員の拡大を目指す。

賛助会員各社の知識を各部門会に提案し、合同展示会や賛助商社各社で実施している商品提案会などの情報提供を行い、情報の共有化を図る。

新規会員や既存の会員に対し、小嶋達典ORA副会長の講演で分かりやすくORAの意義を伝えるためのいい機会になりました。会員各社とともに作り上げていく、今後のORAの活動に注目が集まります。